

# 川崎市地球温暖化対策推進計画

## 年次報告書

～2013年度における地球温暖化対策の推進～



川崎市

2014年12月 発行／川崎市 編集／環境局地球環境推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 電話：044-200-2405 FAX：044-200-3921

URL：<http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-4-7-4-0-0-0-0-0-0-0.html>

### 計画の構成

2009年12月、地球温暖化対策のルールとして「川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例」を制定し、2010年度には、条例に基づき、川崎市の地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、「川崎市地球温暖化対策推進計画（CCかわさき推進プラン）」を策定しました。

計画は基本計画と実施計画の2部構成で、基本計画は、事業活動や市民生活における温室効果ガス排出量の削減など市域の地球温暖化対策全てを対象とし、計画期間や目標、施策の基本的方向を定め、実施計画では、地球温暖化対策の推進のために実施する措置（市の事務事業等の取組）を定めています。

基本計画と実施計画を一体的に運用することで、総合的かつ計画的に地球温暖化対策を推進します。



#### 地球温暖化対策推進基本計画

地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため策定する。次の事項等を定める

- ① 計画期間
- ② 地球温暖化対策の目標
- ③ 施策の基本的方向に係る事項

#### 地球温暖化対策推進実施計画

基本計画に基づき、地球温暖化対策の推進のために実施する措置（事務事業）を定める  
措置（事務事業）の特性に応じて、活動量などの定量的・定性的な目標を定める

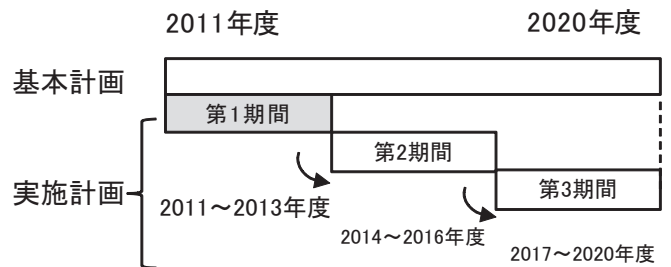
施策体系別措置：地球温暖化対策のために実施する措置（事務事業）を体系的に定める

重点プロジェクト：施策体系別計画のうち重点的に実施する措置（事務事業）を定める

### 計画の期間

基本計画の計画期間は2011年度から2020年度までのおおむね10年間です。

実施計画の計画期間については、おおむね3年間（第1期間：2011～2013年度、第2期間：2014～2016年度、第3期間：2017～2020年度）です。

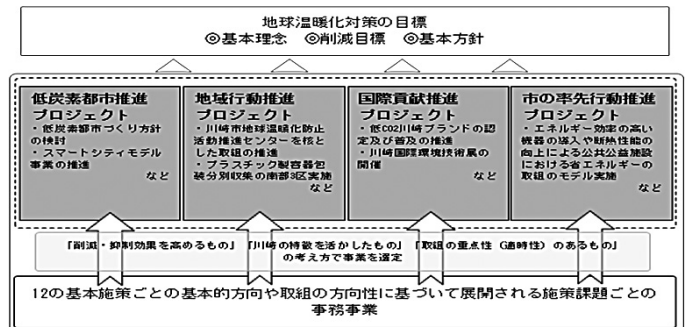


### 基本計画の施策体系と実施計画の重点プロジェクト

10年間の基本計画では、次のページのとおり削減目標及び6つの基本方針に沿って12の基本施策を掲げています。また、3年間の実施計画では、市の事務事業を位置付け、特に重点的に取り組むことによって、大きな施策効果の達成や課題の解決を目指していくとともに、事業者や市民を先導していくような事務事業を選定し、重点プロジェクトとして推進しています。

実施計画の第1期間では、次の4つの重点プロジェクトを推進しています。

- ① 低炭素都市推進プロジェクト
- ② 地域行動推進プロジェクト
- ③ 国際貢献推進プロジェクト
- ④ 市の率先行動推進プロジェクト



基本理念

環境と経済の調和と好循環を基調とした持続可能な低炭素社会を構築し、良好な環境を将来の世代に引き継ぐ

削減目標

- ・市域における温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、本市の特徴である優れた環境技術を活かし地球全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献することで、2020年度までに1990年度における市域の温室効果ガス排出量の25%以上に相当する量の削減を目指す。
- ・各主体が削減目標に向かって、自らの温室効果ガス排出量の削減を図るとともに、協働の取組を進めることで、温室効果ガス排出量を削減する。
- ・国全体の中期目標に関する検討状況等を見極めながら、必要に応じて目標の改定について検討を行う。

基本方針

- ①効果的に温室効果ガス排出量の削減が誘導される社会・経済システムを構築する
- ②再生可能エネルギー源、未利用エネルギーなど、地域に存在するエネルギー資源を有効かつ効率的に利用する
- ③事業者、市民、市がそれぞれの役割に応じて削減する
- ④協働の取組を推進する
- ⑤地球全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献する
- ⑥ヒートアイランド対策に資する

基本施策

I 事業活動における温室効果ガス排出量の削減の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・事業活動に係るエネルギーの効率的な利用を促す。<br>・二酸化炭素とともに、他の温室効果ガス排出量の削減を促す。など |
|-------|---|

II 市民生活における温室効果ガス排出量の削減の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・温室効果ガス排出量の「見える化」を進め、取組の効果が実感できる仕組みを構築する。<br>・環境配慮型ライフスタイルを選択できる仕組みを構築する。など |
|-------|---|

III 再生可能エネルギー源等の利用

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・太陽エネルギー（太陽光・熱）利用量を2020年度までに30倍にする。（2005年度比） など |
|-------|---|

IV 低炭素都市づくりの推進

- |       |  |
|-------|--|
| 基本的方向 | ・低炭素都市づくりを誘導する。<br>・面的な利用など、地区単位でエネルギーの有効利用を促す。 など |
|-------|--|

V 循環型社会の形成の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・2015年度の廃棄物分野における温室効果ガス排出量を35%削減する。（2007年度比） など |
|-------|---|

VI 交通における地球温暖化対策の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・環境や人にやさしい交通ネットワークを構築する。<br>・公共交通機関に依拠した交通ネットワークを構築する。 など |
|-------|---|

VII 地球環境に係る環境教育・環境学習の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・事業者、市民に、地球環境に配慮した考え方や行動の定着を促す。<br>・環境学習活動等を率先して行う人材を育成する。 など |
|-------|---|

VIII 緑の保全及び緑化の推進

- |       |  |
|-------|--|
| 基本的方向 | ・2017年度までに行政が主体的に取り組む緑のインフラの保全と創出として約1,820haを目指す。 など |
|-------|--|

IX ヒートアイランド対策の推進

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 基本的方向 | ・ヒートアイランド現象を緩和し、市民の快適な生活の確保を目指す。 |
|-------|----------------------------------|

X 環境技術による国際貢献の推進

- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・国際的な環境活動や環境技術の移転を通じ、地球全体での温室効果ガス削減に貢献する。 |
|-------|---|

XI 環境技術の研究開発等の推進

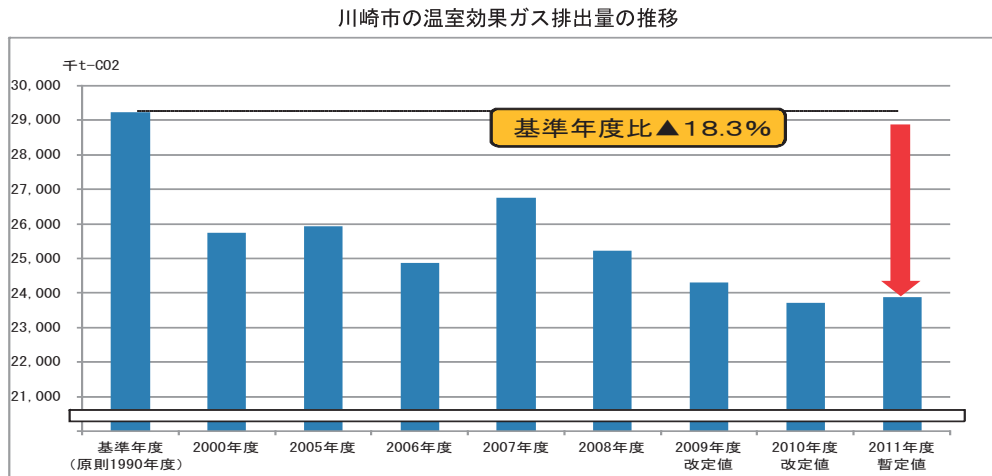
- |       |   |
|-------|---|
| 基本的方向 | ・川崎のフィールドを活かした環境技術研究開発を推進する。<br>・体系的な環境技術情報を発信する。 |
|-------|---|

XII 市役所の率先取組の推進

- |       |  |
|-------|--|
| 基本的方向 | ・2020年度までに市の事業活動に伴う温室効果ガス排出量を2割以上削減する。（2008年度比） など |
|-------|--|

## 2 川崎市における温室効果ガス排出量の状況

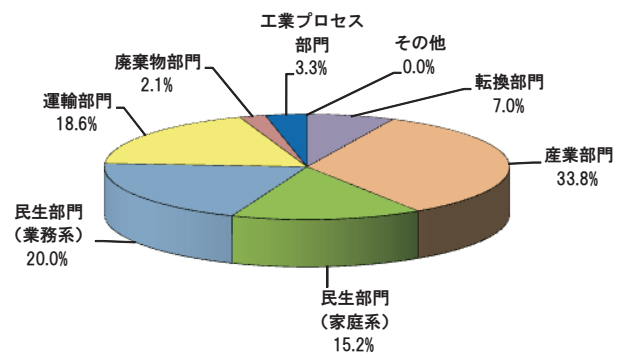
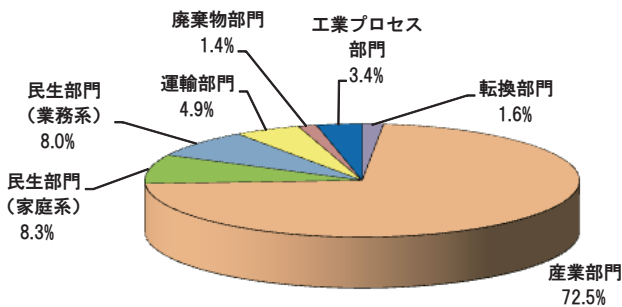
2011年度（暫定値）の温室効果ガス排出量は、2,388万トン-CO<sub>2</sub>であり、基準年度（原則1990年度）の排出量（2,922万トン-CO<sub>2</sub>）と比較して、18.3%の削減となっています。



2011年度（暫定値）の二酸化炭素排出量の部門別構成比を見ると、産業部門が最も高くなっており、全国平均と比べても、非常に大きいことがわかります。

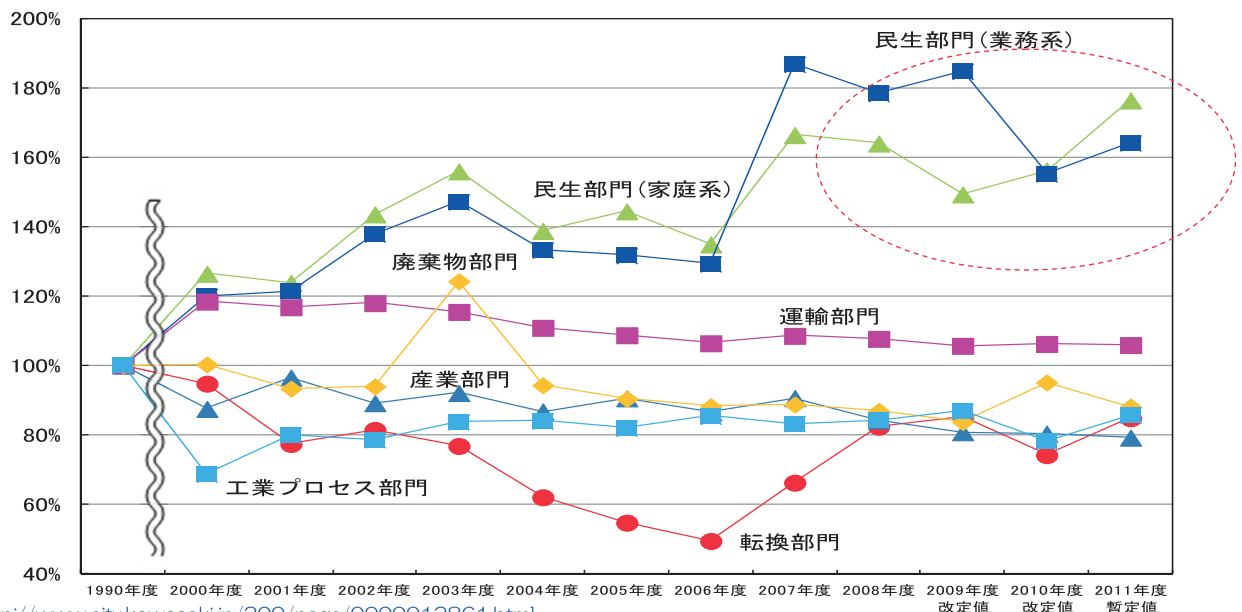
市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比（2011年度暫定値）

全国の二酸化炭素排出量の部門別構成比（2011年度）



部門別の排出量を見ると、転換部門、産業部門、廃棄物部門、工業プロセス部門では1990年度比で減少しています。民生部門（家庭系）、民生部門（業務系）では排出量の増加率が高くなっています。

部門別の二酸化炭素排出量の推移（1990年度=100%）



<http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000013861.html>

## (1) 低炭素都市推進プロジェクト

本市の二酸化炭素排出量のうち、都市における社会経済活動に起因することが大きい民生部門（家庭系）やオフィス・商業系の民生部門（業務系）、自動車等の運輸部門における二酸化炭素排出量は基準年に比べて増加傾向にあります。誰もが暮らしやすい持続可能なまちづくりを進めていくことが重要であることから、中長期的な視点に立ち、関連施策と連携しながら、「コンパクト化」や「エコ化」などに配慮したまちづくりを進めていく必要があります。

2013年度は、創エネ・省エネ・蓄エネの総合的な取組推進などを行いました。

### 創エネ・省エネ・蓄エネの総合的な取組推進

基本施策

Ⅲ、Ⅺ

東日本大震災後のエネルギー需給状況の変化等を踏まえ、創エネ（再生可能エネルギー源の利用）、省エネ（効率的なエネルギー利用）、蓄エネ（エネルギー利用の平準化）を組み合わせた総合的な取組を進めました。

市民向けの取組として、住宅用太陽光発電システム、住宅用太陽熱利用システム、家庭用燃料電池システム及び定置用リチウムイオン蓄電システムの導入補助を行ったほか、中小規模事業者向けの取組として、市内事業者エコ化支援事業による補助などを行いました。

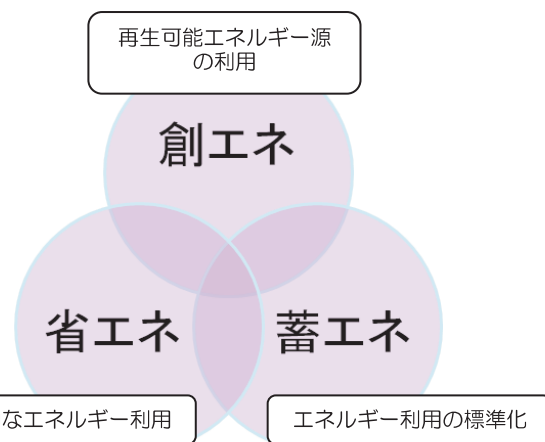
また、新たに小学校等に太陽光発電システムや太陽熱利用システムを設置するなど、公共施設における再生可能エネルギーの率先導入を行ったほか、幸区内の3つの公共施設にBEMS（ビル・エネルギー管理システム）をモデル導入し、消費エネルギーの見える化を図るとともに、得られた結果を踏まえ、今後の運用改善につなげる取組を行っています。

#### 市民向け補助実績

名称	件数
住宅用太陽光発電システム（個人住宅）	816件
住宅用太陽光発電システム（共同住宅）	30件
住宅用太陽熱利用システム	11件
家庭用燃料電池システム	316件
定置用リチウムイオン蓄電システム	37件

#### 事業者向け支援実績

名称	件数
市内事業者エコ化支援事業	14件
省エネルギー診断	2件



太陽熱利用システム

## (2) 地域行動推進プロジェクト

温室効果ガスはあらゆる主体から排出されるものであることから、各主体がそれぞれの役割に応じて削減するとともに、多様な主体の協働により地域での取組を進めていくことで、市民生活におけるエネルギー使用量の削減などを促していく必要があります。

2013年度は、協働の取組を推進するとともに、かわさきエコ暮らし未来館を活用した普及啓発などを行いました。また、プラスチック製容器包装分別収集を全市で実施しました。

### 協働による地球温暖化対策の推進

基本施策

II、VII

多様な主体の協働による取組について、CC川崎エコ会議を通じた情報発信として、CCかわさきホームページやメールマガジンの配信とともに、シンポジウムの開催や川崎国際環境技術展における展示・会場内ツアーを実施しました。また、地域に密着した温暖化対策の推進リーダーとして、川崎市地球温暖化防止活動推進員第3期90名を委嘱するとともに、高津市民館内の情報発信拠点「CCかわさき交流コーナー」で毎月のテーマを定めたパネル展示やミニ講座の実施等の情報発信に取り組んだほか、市立学校や町内会等での出前講座の開催やイベントへの出展等により温暖化対策の普及啓発を進めました。

また、CCかわさき“エコ暮らし”の普及に向けて、5月には川崎フロンターレ等と協力し、「CC等々カエコ暮らしこフェア」を開催するなど、地球温暖化対策を呼び掛けるイベントを開催するとともに、第2回スマートライフスタイル大賞において、株式会社ショウエイ「水」を通じた環境授業等による啓発活動と事業所における環境配慮の取組」の1件を大賞としたほか、優秀賞4件・奨励賞6件を表彰しました。



地球温暖化防止活動推進員活動



第3回CC等々カエコ暮らしこフェア



第2回スマートライフスタイル大賞表彰式



かわさきエコ暮らし未来館には開館以来約 47,000 人の来館者を迎え、市内の再生可能エネルギー等関連施設を有機的に連携させ、最先端の環境エネルギー技術のショーケースとして広く情報発信を行う「CCかわさきエネルギーパーク」の中心的な啓発施設として環境教育・環境学習を推進しています。国内最大級の大規模太陽光発電所の見学ツアー、エコを学ぶ講座なども行っており、再生可能エネルギーや地球温暖化防止に向けた取組を、体験しながら学ぶ事が出来ます。

川崎大規模太陽光発電所は、川崎市と東京電力株式会社の共同事業として、2011 年 8 月に浮島太陽光発電所（未来館と隣接）で最大出力 7,000kW、同年 12 月に扇島太陽光発電所で最大出力 13,000kW の運転を開始し、運転開始 2 年目の実績では、浮島は当初想定の 1.3 倍（約 974 万 kWh）、扇島は当初想定 of 1.1 倍（1,567kWh）の発電量を記録するなど、順調に稼働しています。



<http://eco-miraikan.jp/>

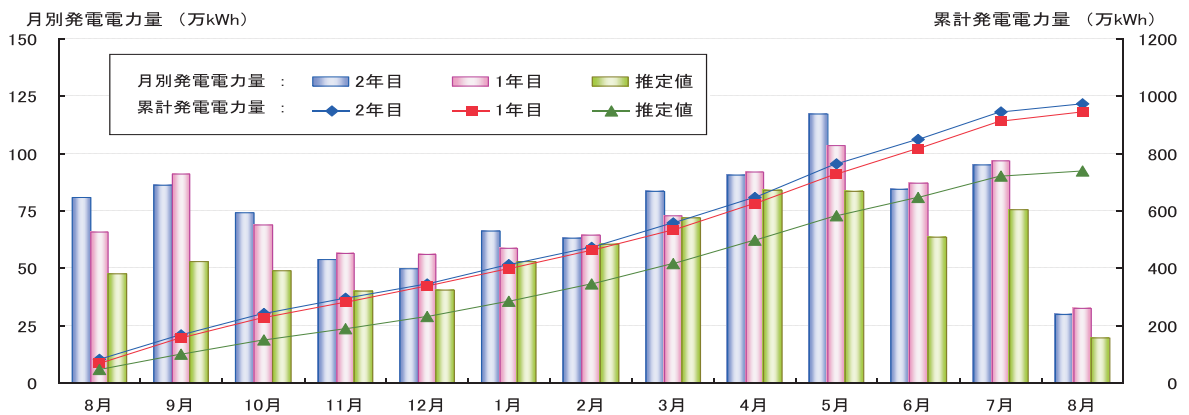


かわさきエコ暮らし未来館



隣接する浮島太陽光発電所

浮島太陽光発電所の月別発電電力量および累計発電電力量の実績



プラスチック製容器包装分別収集の全市実施及び普通ごみの収集回数の変更

ごみの減量・資源化を更に推進するため、プラスチック製容器包装の分別収集については2011年3月から南部3区（川崎区、幸区、中原区）で実施し、2013年9月には北部4区（高津区、宮前区、多摩区、麻生区）を加えて全市で実施するとともに、普通ごみの収集回数を週2回に変更しました。

普及広報活動としては、町内会・自治会などでの住民説明会を開催するとともに、啓発用リーフレットの配布、具体例や排出方法をわかりやすく記載した表示ポートを各種イベント等で掲出を行うなど、広報の充実に取り組んでいます。



3R推進キャラクター「かわるん」との普及広報活動

### (3) 国際貢献推進プロジェクト

世界的な課題となっている地球温暖化の問題を解決していくには、地球全体で考え、地域で出来ることから対応を進めていくことが求められています。市内の温室効果ガスを削減するとともに、本市に培われている優れた環境技術・製品や環境問題に取り組んだ経験・ノウハウの海外移転を促進し、世界をリードする環境技術先進都市として地球全体の環境問題の解決に取り組んでいく必要があります。

2013年度は、国内自治体初の取組である川崎メカニズム認証制度の運用開始などを行いました。

#### 川崎メカニズム認証制度の運用開始・域外貢献量の認証

基本施策

I、X

川崎の特徴・強みである優れた環境技術を活かした地球規模での温室効果ガスの排出削減を推進するため、市内企業の環境技術が市域外で温室効果ガスの削減に貢献している量（域外貢献量）を「見える化」し、企業が市場で適切に評価される仕組みである「川崎メカニズム認証制度」の運用を開始しました。2013年度は、10件の製品・技術等について域外貢献量を認証しました。

また、本市における2012年度の域外貢献量を推計した結果、208万トン-CO<sub>2</sub>となりました。これは、市の削減目標の基準年度である1990年度の市域の温室効果ガス排出量2,922万トン-CO<sub>2</sub>に対して、7.1%に相当する量となります。

#### 2013年度の川崎メカニズム認証制度の認証結果

製品・技術等名称	事業所名
成形機用洗浄剤アサクリン™	旭化成ケミカルズ株式会社川崎製造所
NFボード®	JFEプラリソース株式会社京浜事業部
回生型システム電源(充電・放電機能評価装置)	株式会社高砂製作所
1500℃級コンバインドサイクル(MACG)	東京電力株式会社川崎火力発電所
自動車会社向け省燃費エンジン油	東燃ゼネラル石油株式会社中央研究所
自動車会社向け省燃費無段変速機(CVT)油	東燃ゼネラル石油株式会社中央研究所
単機容量世界最大出力140MW地熱タービン・タービン発電機	富士電機株式会社川崎工場
窓口処理機 EY-5000	株式会社東芝小向事業所
フェーズドアレイ気象レーダ	株式会社東芝小向事業所
145kVガス絶縁開閉装置(GIS)G3A-b	株式会社東芝浜川崎工場



#### 低CO<sub>2</sub>川崎ブランドの認定

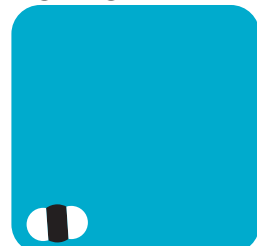
基本施策

I、X

低炭素社会の構築につながるものづくり等を応援するため、ライフサイクル全体でCO<sub>2</sub>削減に貢献している製品・技術等を評価する「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」について、2013年度は、11件の製品・技術等を「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」として認定するとともに、株式会社エクサの「船舶省エネ運航支援システム FCRN a v i ECO+」を「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド大賞」として選定しました。

また、認定製品・技術等について、川崎国際環境技術展における認定結果発表会のほか、エコプロダクツ展などでの出展やホームページ等での広報などにより、認定製品・技術等の紹介や低CO<sub>2</sub>川崎ブランド事業の取組の紹介など情報発信を行いました。

LOW CARBON



低CO<sub>2</sub>川崎ブランド



<http://www.k-co2brand.com/>



低CO<sub>2</sub>川崎ブランド' 13 認定結果発表会



川崎の最先端の環境技術やノウハウを広く国内外に情報発信するとともに、国際的なビジネスマッチングの場を通して普及を促進し、世界の様々な環境対策に貢献することによる環境分野での産業の活性化を目指し、「川崎国際環境技術展 2014」を開催し、157 団体、237 ブースの出演と、海外参加者を含め約 4,500 名の来場がありました。

また、過去に川崎国際環境技術展に出演した企業に対するアンケート等をもとに、企業の海外展開に向けたヒアリング（7 社）を行い、専門コーディネーターによるマッチングフォローアップを実施するとともに、技術展当日にも専門家を配置し、アドバイス、コーディネート等による事業者支援を実施しました。

（大雪のため、2 日目は開催中止）



川崎国際環境技術展 2014

## 環境に関する総合的な研究の推進

2013 年 2 月 1 日に、川崎区殿町 3 丁目の国際戦略拠点「キングスカイフロント」の中核施設、川崎生命科学・環境研究センター「L i S E」（ライズ）内に開設した環境総合研究所では、地域の環境改善と環境汚染防止のための監視・調査・研究に加えて、川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進や、環境技術情報の収集と発信などを行うほか、都市と産業の共生を目指した研究に取り組むなど、外部研究機関や企業と幅広く連携しながら、環境に関する総合的な研究を推進しています。

2013 年度には、環境技術を活かした国際貢献の推進に向けて、UNEP と連携し、先進的な環境技術・戦略の情報交換の場として「第 10 回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」を開催し、瀋陽市(中国)、バンドン市(インドネシア)、ペナン州(マレーシア)等のアジア諸国や環境省、国立環境研究所等の関係機関等から延べ 338 人が参加しました。フォーラムでは、「エコタウン」をテーマの一つとして、先進的な環境都市の形成や環境産業の振興、参加各都市の環境の取組及び環境教育の取組等について情報共有を図り、川崎発の環境・エネルギー産業が牽引するグリーン・イノベーション(環境と経済の両立による成長の原動力となる取組)の推進を、国内外に発信することができました。

また、環境技術情報の収集と発信を推進するため、ポータルサイト「川崎市環境技術情報」のリニューアルを行い、掲載情報の充実を図るとともに、7 件の産学公民連携による共同研究事業などを行いました。



共同研究により実証実験を行った  
直流給電方式の太陽光発電システム



第 10 回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム

## （４）市の率先行動推進プロジェクト

市役所は、民生部門（業務系）では市内最大の排出事業者となっており、市民や事業者に率先して、省エネルギーなどの地球温暖化対策に取り組んでいく必要があります。特に、市の公共施設については、多くの人が集い、市の環境配慮の取組のアピール度が高く、効果的な普及広報が期待できることから、積極的に地球温暖化対策を進める必要があります。

2013年度は、市建築物における環境配慮標準の策定をはじめとして、市役所の率先した取組を行いました。

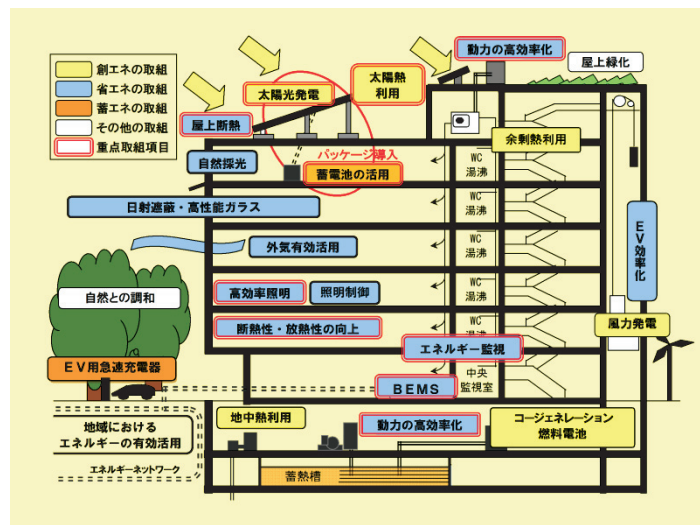
### 市建築物における環境配慮標準の策定・運用

基本施策

XII

市役所の率先取組の推進として、省エネルギー対策など環境分野におけるエネルギー対策を推進し、CO<sub>2</sub>削減の取組等を一層進めていくため、「市建築物における環境配慮標準」を策定しました。

「市建築物における環境配慮標準」では、市建築物に環境技術を導入する際に検討・配慮すべき環境配慮の標準的仕様として位置付け、庁内導入検討の迅速化を図るとともに、省エネルギー対策など環境分野におけるエネルギー対策を推進します。また、「推進のビジョン」として、創エネルギー、省エネルギー、蓄エネルギー技術を有効に活用しながら、技術を総合的にパッケージ化し取組を推進することを位置付け、低炭素社会の実現に取り組んでいきます。



市建築物における環境配慮の全体像

### 電力需給対策の着実な実施

新たな取組

市内における中長期的な電力需給に関する安全と安心を確保するため「平成25年度川崎市電力需給対策推進基本方針」を策定し、節電対策をとりまとめたリーフレットなどによる普及啓発や、住宅用太陽光発電設備の設置補助や中小規模事業者に対する省エネルギー診断の実施やエコ化の支援などを通じて、市民・事業者・行政が一体になった取組を推進しました。

市役所の率先した取組として、市民生活に大きな影響が生じない施設の電気使用量を平成22年度比で概ね15%以上削減することを目標に、市有施設への再生可能エネルギーの導入拡大などを行いました。取組の結果、年間電気使用量の平均削減率は、庁舎・区役所等で9.0%となりました。電気使用量の増加については、2011年度以降に新しい施設を開設したことが大きな要因となっており、新施設や廃止施設を除いた場合の庁舎・区役所等における平均削減率は22.2%となっています。



## 4 2013年度の取組経過

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「平成25年度川崎市電力需給対策推進基本方針」の取組がスタート 市内における中長期的な電力需給に関する安全と安心を確保するため取組をスタート</li> <li>◎ 川崎メカニズム認証制度がスタート 全国自治体初となる、域外貢献量を見える化し、企業が市場で適切に評価する仕組み「川崎メカニズム認証制度」を運用開始</li> <li>◎ 第3期川崎市地球温暖化防止活動推進員委嘱式の開催 地域に密着した温暖化対策の推進リーダーとして第3期90名を委嘱</li> </ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 環境産業フォーラム開催 テーマ：環境先進都市かわさきの新しい都市ビジネス</li> <li>◎ かわさき環境ショーウィンドウ大賞2013の選定 大賞1件、入賞5件を選定</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 九都県市「ライフスタイルの実践行動」キャンペーン 「つなげよう」「ひろげよう」省エネ・節電～地球の未来のために～をテーマに、各都県市の率先取組やイベント等を通じて市民・事業者への啓発などを実施（2013年5月～2014年4月まで）</li> <li>◎ 地球温暖化防止展に「川崎メカニズム・低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」出展 NEW 環境展と同時開催された「2013 地球温暖化防止展」に初めてブース出展し、事業やこれまでの認定製品等をPR</li> <li>◎ CC等マカエコ暮らしフェアの開催 川崎フロンターレ等と協働して、CCかわさき”エコ暮らし”キャンペーンとして低炭素・資源循環・自然共生の3つの環境配慮行動を呼びかける環境イベントを開催</li> </ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 瀋陽市からの環境技術研修生来川 友好都市中国瀋陽市からの環境技術研修生2名を1ヶ月受入れ</li> <li>◎ 九都県市再生可能エネルギー活用セミナーの開催 太陽光や太陽熱といった再生可能エネルギーの普及啓発を目的としたセミナーを開催</li> <li>◎ CC川崎エコ会議シンポジウム・第2回スマートライフスタイル大賞表彰式の開催 大賞1件、優秀賞4件、奨励賞6件を表彰</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「市建築物における環境配慮標準」の策定 市の率先した取組の推進として、省エネルギー対策など環境分野のエネルギー対策を推進し、CO<sub>2</sub>削減の取組を一層進めていくために策定</li> </ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ エコプロダクツ展に「川崎メカニズム・低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」出展 日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」にブース出展し、事業やこれまでの認定製品等をPR</li> <li>◎ 扇島太陽光発電所運転開始2周年 12月19日に運転開始2周年を迎え、発電電力量は当初想定1.1倍となる約1,567万kWh</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 環境局におけるスマートライフスタイルの実践 節電及び職員の健康保持、意識啓発や効果的効率的な事務執行の観点から、環境局本庁職場において勤務時間内の効率的な事務処理に努め、ノー残業デーの徹底をはじめ原則定時退庁とするスマートライフスタイルを実践（7月～8月）</li> <li>◎ かわさきエコ暮らし未来館「環境教室」夏休み特別企画～エコピース“エコ暮らしの大秘策”～の開催 かわさきエコ暮らし未来館で、次世代エネルギーや資源循環をテーマとした工作の講座を開催するなど、環境について楽しく学べる環境教室を開催（7月8月計3回）</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 低CO<sub>2</sub>川崎ブランド’13の認定 製品・技術部門10件、サービス部門1件を認定</li> <li>◎ 平成25年度川崎メカニズム認証制度の認証 製品・技術等10件を認証</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 産学公民連携公募型共同研究事業キックオフ会開催 2013年度に実施する共同研究事業（7件）を紹介</li> <li>◎ かわさき環境ショーウィンドウ・モデル事業2013の選定 環境関連製品と市内の様々な施設を活用し、省エネや創エネに効果があり、一般の方々にもわかりやすい“環境関連技術の見える化”をテーマとしたアイデアを募集し、優れたアイデア3件を選定</li> <li>◎ 浮島太陽光発電所運転開始2周年 8月10日に運転開始2周年を迎え、発電電力量は当初想定1.3倍となる約974万kWh</li> </ul>	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 第10回アジア太平洋エコビジネスフォーラムの開催 先進的な環境技術・戦略の情報交換の場としてUNEPとの連携により開催</li> <li>◎ 川崎国際環境技術展2014開催 2009年から6回目となるアジア地域を中心に優れた環境技術を移転し、環境技術による国際貢献と産業の活性化を目指す「川崎国際環境技術展2014」を開催（来場者数約4,500名）。あわせて、低CO<sub>2</sub>川崎ブランド’13認定結果発表会・かわさき環境ショーウィンドウ事業2013表彰式を開催（大雪のため、2日目は開催中止）</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ プラスチック製容器包装分別収集の全市実施 ごみの減量・資源化を更に推進するため、プラスチック製容器包装分別収集を、先行実施している南部3区に北部4区（高津・宮前・多摩・麻生区）を加えて、全市で実施</li> </ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 産学公民連携公募型共同研究事業成果報告会開催 2013年度の共同研究7事業の成果発表</li> <li>◎ かわさきコンパクトフォーラム開催 テーマ：かわさきコンパクトを取り巻く世界の流れ</li> <li>◎ かわさきエコ暮らし未来館「環境教室」春休み企画～つくって、まわして！エコちゃんずとくるくるエコクエスト～の開催 かわさきエコ暮らし未来館で、工作教室などの体験を通じて地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環について学べる環境教室を開催</li> <li>◎ 域外貢献量推計結果の公表 2012年度の域外貢献量推計結果は208万トン-CO<sub>2</sub></li> <li>◎ 川崎市地球温暖化対策推進実施計画（第2期間）の策定 実施計画（第1期間）の計画期間終了を受け、2014～2016年度を計画期間とする後継計画として策定</li> </ul>



ろじいちゃん のめいちゃん  
エコちゃんず



KAWASAKI CITY

◎この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。  
◎この印刷物は、大豆インキを使用しています。

